

教育・実務業績書（専門職大学等の教員）

平成29年11月15日

氏名 井上 留美

職 業 分 野	職 務 内 容 の キ ー ワ ー ド	
動物リハビリテーション	専門学校のマネージャー、アニマルセラピー	
教 育 上 の 能 力 に 関 する 事 項		
事項	年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例 ①実践的な教育 ・原書を使用した比較検討講義の実践  ・自主研究提示による、積極的社会参加の指導  ・愛玩犬を用い具体的事例を挙げての比較検討講義の実践	平成9年4月～ 現在に至る  平成9年4月～ 現在に至る  平成16年4月～ 現在に至る	犬の特性を教育するのに最も適した教材として最新の公認犬種をすべて網羅した「Complete dog book」を採用して、海外の最新情報を提供し、生徒の学習意欲に緊張感を与えた。また、動物リハビリテーションを教育するために最も適した、教材として「Canine Rehabilitation」を採用し、実際のモデル犬を使用して評価基準を学習させた。さらに本来の学習の意味を再認識させ、担当外その他科目においても目的意識をもった学修態度で受講が適うよう、指導を行った。  自主研究課題を提示することで、学力での教育に学習範囲をとどめず、積極的に社会参加させることで、奉仕精神、社会性、勤労意欲などの向上が適うよう指導した。  ヤマザキ動物看護短期大学動物看護学科専門科目「イヌの特性」（1年生約100人）においてゲストスピーカーとして実践した。現ヤマザキ学園大学動物看護学部動物看護学科では「動物リハビリテーション」において実施している。 適宜プリントを配布し、イヌの特性および品種ごとでの特性について具体的に愛玩犬を用い、コンパニオン・アニマルとして家庭犬に向く品種の条件等を理解しやすいように解説する際、リハビリテーションの対象となりやすい疾患を発症しやすい品種の解説を実施した。また、起源と発生、品種が固定された文化圏の特徴などを例示し、動物看護職として、より、イヌに近い場所で勤務するものにとって必要不可欠な知識の涵養を心掛けた。講義終了時には課題を与え、次回に提出させることで積極的に授業に参加させ、課題発表を通して疑問の解決にも取り組んだ。

<p>・パワーポイントを使用した講義</p>	<p>平成 15 年 4 月～ 現在に至る</p>	<p>現ヤマザキ動物専門学校動物看護・美容学科（1 年生、2 年生、3 年生）、動物看護学科（1 年生、2 年生）専門科目「イヌのリハビリテーション」、「動物看護学概論」およびヤマザキ学園大学（4 年生）「動物リハビリテーション」においても同様にパワーポイントを使用した効果的な授業を展開しており、高評価を得ている。</p> <p>ヤマザキ動物看護短期大学動物看護学科専門科目「アニマルアシステッドセラピー論」（2 年生約 100 人）ゲストスピーカーにおいて実践した。パワーポイントを使用し、視覚的な面からも理解が深まるよう配慮した。その結果、学生の理解度、満足度が高まり、学生からの評価アンケートでも好評を得た。</p> <p>授業内容はアニマルアシステッドセラピーの定義から動物が人にもたらす効果についての先行研究や、事例研究を学習し、コンパニオン・アニマルが人にもたらす効果を生理的側面・心理的側面・社会的側面から考えさせる。</p> <p>さらに、動物看護師がアニマルアシステッドセラピーに介入する際に必要な知識・技術・動物への配慮、受け入れ施設の対応等、実践で活躍するための必須項目等を説明した。さらにアニマルセラピーに参加したイヌやネコなどの動物を癒すためのマッサージ方法を指導した。</p> <p>また子供、高齢者など、世代別に捉え、人のライフサイクルを踏まえることで社会性、人間性の育成にも従事することを指導した。</p>
<p>・海外研修旅行の企画・運営、参加推奨による、国際人教育の実践</p>	<p>平成 9 年 4 月～ 現在に至る</p>	<p>ヤマザキ動物専門学校、ヤマザキ学園大学において（全学年対象・自由参加）、参加者毎回平均 100 人に向けて実践している。</p> <p>動物に対する研究の先進国である米国・豪州への研修旅行を推奨している。学園の構築したネットワークを持って、通常では実現の難しい高品位な研修旅行を企画・運営することで、海外の文化に触れ、コンパニオン・アニマル、人間との関わりの学習効果を高め、真の国際人としての関わりの学習効果を高め、真の国際人としての人材を育成することを実現した。</p> <p>主な研修内容としては、獣医大学でのセミナー受講や最新医療施設の見学・実習体験、動物愛護協会の見学・補助犬（盲導犬・介助犬・聴導犬）育成プログラム受講・ボランティア施設の見学、実習体験、ドッグショー見学などである。ドッグショー見学においては、ドッグショーの見方やハンドリングのジュニアショーマンシップを事前教育した。また訪問国の動物に関するトピックスをタイムリーに経験できるよう企画した。</p> <p>参加した学生には研修旅行中にレポート提出を指導し、帰国後に報告会を行い学習効果を高めた。</p>

<p>2 作成した教科書、教材</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体化した授業プリント作成</li> <li>・パワーポイントを活用した教材の作成</li> <li>・レクチャーノート用パワーポイント作成</li> <li>・AHT臨床実習書</li> <li>・the complete of dog grooming</li> </ul>	<p>平成 9 年 4 月～ 現在に至る</p> <p>平成 10 年 4 月～ 現在に至る</p> <p>平成 17 年 11 月 現在に至る</p> <p>平成 9 年～</p> <p>平成 12 年 4 月</p>	<p>ヤマザキ動物看護短期大学動物看護学科専門科目「イヌの特性」(1 年生 100 人)において使用した。</p> <p>担当科目ゲストスピーカーとして教育を展開する上で、必要不可欠となるプリント教材を適宜作成した。代表的な犬種のスタンダード図解、サイズバラエティによる犬種間格差を中心に描くとともに、リハビリテーションの対象となりやすい犬種について解説し、視覚的にも理解が高まるプリント教材を作成した。</p> <p>現ヤマザキ動物専門学校動物看護・美容学科(1 年生, 2 年生, 3 年生)、同校動物看護学科(1 年生, 2 年生)において使用し、現ヤマザキ学園大学動物看護学部動物看護学科(4 年生)でも使用している。</p> <p>口頭だけでは理解が不十分になると予想される点を重点的に映像化、閲覧させることで学習満足度の向上をはかる。様々な情報の中で、要点をいかに印象強く残すか、正確に伝えるか、理解させるかを目的に使用している。学生評価アンケートからも学習効果を促す役割を果たしている。</p> <p>金泉大学(韓国)の研究授業において、本学で開催する講義にあたり、韓国語用のレクチャーノートの作成に参加した。その内容に沿ったパワーポイントを作成し、講義内で視覚的に訴えた。</p> <p>アニマルアシステッドセラピーの歴史、定義、実情、動物のストレスサインや、カーミングシグナルなど、基礎領域を具体的にわかりやすく講義した。</p> <p>ヤマザキ動物専門学校の基幹科目であるAHT(動物看護)臨床実習書オリジナルテキストの作成監修を行った。毎年、現場のニーズに合わせて改訂を行っている。書き込みができるノート形式にしてあり、卒業後も小動物医療現場においてバイブル的に使用できる教科書として好評を得ている。</p> <p>急速に発展を遂げたイヌのグルーミングに関する理論・技術に対応し、長年の研究により積み重ねられた、グルーミングの技術と、学問体系を学習者にとって平易に受け入れられる幅広い内容ある。グルーミングにおける動物看護の要素は必須となっており、健康管理や犬の安全管理についての章を執筆した。</p>
<p>3 教育上の能力に関する大学等の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヤマザキ動物専門学校学生による授業評価アンケートにおける評価</li> </ul>	<p>平成 20 年 4 月～ 現在に至る</p>	<p>ヤマザキ動物専門学校において、平成 17 年から毎年 2 回実施されている授業評価アンケートによると、本人が担当している「イヌのリハビリテーションⅠ」、「イヌのリハビリテーションⅡ」、</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>ヤマザキ学園大学学生による授業評価アンケートにおける評価</li> </ul>	<p>平成 27 年 4 月～ 現在に至る</p>	<p>「動物看護学概論」は具体的であると評判がよく、学生の満足度が高い結果を得ている。</p> <p>ヤマザキ学園大学において、平成 27 年から毎年 2 回実施されている授業評価アンケートによると、本人が担当している「動物リハビリテーション」は具体的であると評判がよく、学生の満足度が高い結果を得ている。</p>
<p>4 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>夏季及び冬季休暇中のインターン受け入れ指導</li> <li>現職動物看護師の知識および技術チェックと指導担当</li> <li>朝日動物愛護シンポジウム 「動物愛護夏休み体験セミナー」講師・実技指導</li> <li>「動物に関わる仕事」毎日小学生新聞 「動物の仕事発見ツアー」講師・実技指導</li> </ul>	<p>昭和 63 年 8 月～ 平成 8 年 12 月</p> <p>平成 2 年 4 月～ 平成 8 年 12 月</p> <p>平成 12 年 7 月・ 8 月</p> <p>平成 13 年 7 月・ 8 月</p>	<p>ヤマザキカレッジ日本動物看護学院、学校法人ヤマザキ学園専修学校日本動物学院およびヤマザキ動物専門学校とのインターンシップを指導した。</p> <p>動物病院NORIKOにおいて、学校の夏季および冬季休暇中 1 人ずつ 1 週間単位でのインターン研修の指導を行った。受付業務、犬舎掃除、入院患者の食事管理、投薬、診療補助（保定）、臨床検査（血液、尿、糞便）、レントゲン検査（ポジショニングとフィルム現像）心電図、血圧測定の実行をさせた。</p> <p>手術準備などを教えたらチェックするノートを作成させる。現職動物看護師らと割り振り指導を行った。さらにグルーミングの指導も自ら行った。最終的に全項目を確認し、インターン生の質問にも応じた。</p> <p>動物看護師長として、現職動物看護師の質の向上と技術、手技の統一性を高めるために、事務処理、検査、ワクチン、フィラリア予防薬、薬品、医療機器の操作をチェックさせた。</p> <p>学校法人ヤマザキ学園専修学校日本動物学院で開催された朝日動物愛護シンポジウム 「動物愛護夏休み体験セミナー」において、「動物の愛護および管理に関する法律」の発布・施行に伴い、朝日新聞社主催で実施された同イベントが、学生、社会人を対象としたものであったため、児童・生徒を対象とした、ふれあいをテーマとした啓発イベントの講師として、講演・実技の体験指導を担当した。</p> <p>学校法人ヤマザキ学園専修学校日本動物学院で開催された毎日小学生新聞「動物の仕事発見ツアー」において、多様な分野にまたがる動物関連産業、動物関連の学修分野に関して、小学生が、実際にそれらを体験することで、平易に理解し、かつ、動物愛護の育成が適うよう留意し、動物看護師としてコーナーを担当した。</p> <p>動物にかかわる仕事への理解と興味を深めるため、主催の毎日新聞社と綿密な事前協議を重ね、動物病院、ペットショップ、美容院、トレーニングセンター、臨床検査研究所などの施設を再現した各フロアでのロールプレイング形式の講習会を行った。この講習会に講師として実際に参加することで、動物に携わる仕事を紹介するという</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生命（いのち）を預かる仕事」毎日中学生新聞「動物の仕事発見ツアー」講師・実技指導</li> </ul>	<p>平成 13 年 7 月・8 月</p>	<p>目的を達成した。動物看護職、グルーマー、ドッグトレーナー等、将来この分野への就職を希望する対象者の保護者にとっても、適切な理解を促す機会を提供することが出来た。</p> <p>学校法人ヤマザキ学園専修学校日本動物学院で開催された毎日中学生新聞「動物の仕事発見ツアー」において、多様な分野にまたがる動物関連産業、動物関連の学修分野に関して、中学生が、実際にそれらを体験することで、平易に理解し、かつ、動物愛護の育成が適うよう留意し、動物看護師コーナーを担当した。</p> <p>生命及びヒトと動物の共生の大切さ又、イヌやネコの高齢化について、動物の飼育イコール生命を預かることだと理解させ、動物の仕事に携わることの重要性と持つべき心構え、緊張感などについて平易に指導した。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日新聞社「ドッグスポーツフェスタ 2002」講師・相談員</li> </ul>	<p>平成 14 年 8 月</p>	<p>東京都立「夢の島陸上競技場」で開催された毎日新聞社「ドッグスポーツフェスタ 2002」においてイヌと人間のふれあいによる、動物愛護の啓発を実施した。毎日新聞社主催の同イベントにおいて、イヌの健康管理や衛生管理をテーマとしたブースを担当し、イヌの健康的な食事や体の手入れに関して、指導にあたった。犬種や年齢ごとの栄養管理の違いや手入れ方法について相談ごとが寄せられるなど、イヌ学の一般への周知、啓発に貢献した。</p> <p>イヌとヒトが共にスポーツを楽しむドッグマラソンを推奨し、『人と動物のコミュニケーション』と『健康作り』を主な目的とし、さらにドッグマラソンという競技を通してイヌと共生することの素晴らしさ広めることにより、『モラルの啓発』『イヌと人間社会とのより良い関係』を築く目的で開催された。本競技会に運営ボランティアとして参加したことで、円滑な運営を実現した。この様子は主催の毎日新聞を始め、各種メディアで取り上げられた。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・神奈川県立城郷高等学校総合学習講師</li> </ul>	<p>平成 14 年 11 月～</p>	<p>神奈川県立城郷高校の総合学習の受け入れを行い体験学習授業を行った。実習授業形式による動物看護、トレーニング、グルーミングを行い、動物看護実習で講師を担当した。動物分野に関心のある生徒に対し、動物の正しい飼養管理の知識と共に、動物の職業について考える機会を与えた。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小松原女子高等学校（現浦和麗明高等学校）ペット愛玩コース提携授業講師</li> </ul>	<p>平成 15 年 6 月～平成 29 年 6 月</p>	<p>小松原女子高等学校（現浦和麗明高等学校）ペット愛玩コースの 2 年生に対して提携授業を行った。動物看護分野で座学と実習の講師を務めた。座学では動物の適性飼育の大切さや主要な動物の仕事を紹介し理解をすすめた。動物看護実習では、併設する動物病院を使用して授業を行っており、動物看護師の仕事を教授し好評を得た。</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ クラーク国際記念高等学校東京キャンパス動物生命科学コース提携授業調整および講師</li> </ul>	<p>平成 17 年 4 月～ 現在に至る</p>	<p>クラーク国際記念高等学校東京キャンパス動物生命科学コースの 1 年生、2 年生、3 年生を対象に提携授業を行っている。年間 25 回実施する日程と内容の調整を担当し、自らも動物看護学の授業を担当している。当該校は実習施設を持たないため、当校の動物病院や動物看護実習室、グルーミング実習室、トレーニング施設を使用する授業は毎回好評を得ており、毎年数名の生徒が当学園の大学および専門学校へ入学している。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文部科学省委託事業「都内専門学校の教育カリキュラムを活用した職業体験プログラム」</li> </ul>	<p>平成 21 年 8 月 (前期)、11 月、 12 月 (後期) 全 6 回</p>	<p>文部科学省委託事業「専修学校・高等学校連携等職業教育推進プラン」参加者対象を高等学校等在校生および高等学校教員とし、都内専門学校の教育カリキュラムを活用した職業体験プログラムである。</p> <p>東京都の専門学校は比較的、充実した環境・設備等を生かし、夏休み等を利用して職業教育の体験学習に取り組んでいるところであるが、このプログラムはそうした個々の学校の取り組みについて、協会を中心に、より組織的に編成し、高校生にとって、受講しやすく効果的に職業教育を体験できる場を提供している。</p> <p>全部で 6 分野の専門学校が参加し、ヤマザキ動物専門学校では動物分野の職業体験を担当した。前期 70 名、後期 99 名、計 169 という参加校では最高の受講者数を得た。本校は、小動物（コンパニオン・アニマル）を学修する専門学校として東京都で初めて認可を受けた学校で、1 万人を超える卒業生を動物業界に輩出している。動物は比較的興味を持ちやすい分野であるが、動物の職業の実際については具体的に知る機会が少ない。そこで、本講座では、体験と講義を交えながら動物の職業（動物看護、動物美容、動物しつけ、動物の職業）についてわかりやすく体験学習を行った。受講者アンケートによると進路に対する考え方に変化があった生徒が半分以上という結果で、進路選択に成果をあげた。</p> <p>本事業では教材の作成および講師を担当した。動物看護師の業務については、7 分野に分けて受講者が理解しやすく工夫し教授した。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アメリカ研修旅行団長として引率</li> </ul>	<p>平成 11 年 8 月</p>	<p>現ヤマザキ動物専門学校の学生参加者約 100 名を教職員とともに引率し、サンフランシスコとロサンゼルスを訪れた。研修先は、盲導犬協会、動物虐待防止協会、カルフォルニア大学デイビス校にて研修した。大学では R V T（公認動物看護師）による看護計画、災害時の動物保護、留置針や血圧測定に関するテクニック等を学び、その後ドッグショーを見学した。ロサンゼルスに移動後ディズニーランドでの自由行動、さらにカリフォルニア・ポリテクニック大学にて栄養学のレクチャーを受けた。ここではアラビアンホースで実際の馬の飼育管理を学んだ。最終日の思い出ディナーから帰国まで、病人も出ず充実した素晴らしい研修旅行の副団長として務めた。</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・オーストラリア研修旅行団長として引率</li> </ul>	<p>平成 13 年 8 月・平成 19 年 8 月</p>	<p>現ヤマザキ動物専門学校 of 学生参加者 197 名（平成 13 年）、83 名（平成 19 年）を教職員とともに引率し、シドニーとゴールドコーストを訪問した。研修先は牧場、大学、動物園、盲導犬センターやセラピードッグセンターなど多彩であった。ゴールドコーストではさらに水族館やコアラ園、ドッグショー、大学でのレクチャーを受けた。最終日の思い出ディナーから帰国まで、事故もなく充実した内容で学生の満足度が高い研修旅行の団長として務めた。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO 法人日本動物衛生看護師協会「ケーナインリハビリテーション」セミナー講師</li> </ul>	<p>平成 19 年 8 月～平成 29 年 8 月</p>	<p>NPO 法人日本動物衛生看護師協会では 2006 年から世界でも数少ないイヌのリハビリテーション資格取得のための国際セミナー「ケーナインリハビリテーション」を開催している。メイン講師のヘレン・ニコルソン博士をオーストラリアから招聘している。博士は 2009 年に動物理学療法士としては世界で初めて博士号を取得され、世界中で活躍されているこの分野における権威である。</p> <p>この講習受講者はベーシック①～⑥までを受講の後、筆記と実技の資格認定試験に臨む。ここでは、ベーシック①の講師として、マッサージの実技指導を担当している。ケーナインリハビリテーションベーシックの資格付与は 2010 年より認定を開始しており、当初から資格認定委員としても試験官を担当し、教育と資格の普及に尽力している。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・群馬県立中央中等教育学校「総合的な学習の時間」の一環「研究機関訪問」へ協力</li> </ul>	<p>平成 29 年 1 月</p>	<p>群馬県立中央中等教育学校「総合的な学習の時間」の一環のなかで、「研究機関訪問」の訪問先指導者として当校副校長の立場で指導助言した。</p> <p>当該中学校 3 年生 3 名がヤマザキ動物専門学校へ来校し、課題研究についての質問に答えた。研究テーマは、「もし自分が飼い主だったら～災害とペットへの対応～」で、東日本大震災での被災ペットや、その後の熊本地震での被災ペットが多くいることを知り、本人がイヌを飼育していることもあり、もし自分が被災したら、どうするのか考えようと思ったことがきっかけだった。調べる中でイヌが抱えている問題点や、解決するためにはどうしたらよいかを調べ、啓発方法を考えた内容であった。インターネットを用いてこの分野に相応しい専門家を検索したところ、動物の専門学校教員で動物福祉協会新東京支部長の所へ辿り着いたようだ。私自身が動物災害救援本部福島シェルターヘタスクフォース参加した経験を踏まえて助言を行い、生徒たちに満足した指導を行った。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヤマザキ動物専門学校入学予定者への登校日入学前教育</li> </ul>	<p>平成 23 年 11 月 12 月～現在に至る</p>	<p>ヤマザキ動物専門学校の入学予定者に対して、入学前の登校日に講話を担当している。</p> <p>入学までの時間を有効活用してもらうため、合格者には入学までに提出課題を指導している。その参加者に対して、動物愛護についてのテーマや当該校のトピックスに関するテーマで講話を行い入学予定者が近い将来、動物を使用する学びをス</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>専修学校日本動物学院での教育実績</li> <li>ヤマザキ動物専門学校での教育実績</li> <li>ヤマザキ動物専門学校での教育実績</li> </ul>	<p>平成9年3月～現在に至る</p> <p>平成19年11月</p> <p>平成21年7月～現在に至る</p>	<p>タートするにあたり、動物愛護について意識するよい機会となっている。</p> <p>学校法人ヤマザキ学園専修学校日本動物学院（現ヤマザキ動物専門学校）専任講師に着任し、以下の授業を担当した。 「動物看護実習」、「動物医療機器論」、「動物看護学概論」、「イヌ学」、「飼養管理学」、「グルーミング実習」、「畜犬概論」、「イヌのリハビリテーション」</p> <p>着任当時は、動物看護教育は獣医師が中心で行われており、動物看護師による教育は稀であった。今でこそ、各校で普通に行われているが、動物看護師の目線にとらえ、組み立てられた各授業内容は、臨床現場と同様の臨場感を与え、学生から好評であった。</p> <p>ヤマザキ動物専門学校1年生約300人を対象に動物看護職の使命感を深めることを目的に1年生対象の「教養セミナー」（講義）を行った。日本だけでなく、海外へも視野を向けるべく、海外における動物看護事情を解説した。海外の動物看護師協会の紹介、イヌ・ネコの飼育率、避妊去勢率、処分率を具体的にグラフにし、理解しやすいよう視覚的な面からも配慮した。</p> <p>また、同年実施されたアメリカ研修旅行の報告をアメリカの動物事情が伝わるよう、パワーポイントを用いて解説し、研修旅行に参加しなかった学生にも、アメリカの最新設備や最新医療を知ってもらえるよう配慮した。</p> <p>ヤマザキ動物専門学校3年生を対象に「動物看護の歴史と現状」（セミナー）を行っている。</p> <p>NPO法人日本動物衛生看護師協会が認定する資格の説明や、動物看護職の資格認定5団体で構成する動物看護職統一試験協議会についての説明を行い、日本の動物看護師を取り巻く現状について理解が深まるよう指導している。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>ヤマザキ動物看護短期大学での教育実績</li> <li>ヤマザキ学園大学での教育実績</li> </ul>	<p>平成21年7月</p> <p>平成25年4月～現在に至る</p>	<p>ヤマザキ動物看護短期大学3年生を対象に「動物看護の歴史と現状」（講義）を行った。</p> <p>NPO法人日本動物衛生看護師協会が認定する資格の説明や、動物看護職の資格認定5団体で構成する動物看護職統一試験協議会についての説明を行い、日本の動物看護師を取り巻く現状について理解が深まるよう指導した。</p> <p>ヤマザキ学園大学4年生を対象に選択科目「動物リハビリテーション」（講義）講師を担当している。動物リハビリテーションは動物医療において、近年、関心が高まっており、その施術者として動物看護師の役割へ期待が集まっている。また、家庭動物の高齢化を背景に、動物のQOL（生活の質）の向上が重要視されている。今後の臨床現場で需要が見込まれる動物理</p>



		<p>学療法の、基本的な技術と理論の理解を深めることは、良質な動物看護を提供するために必須である。</p> <p>リハビリテーションにおける動物の正しい扱いや、機能回復に有効とされるさまざまな運動器具の使用方法について、理解しやすい教材作成および講義を行った。小動物臨床でのリハビリテーションにおける動物看護師の役割について掘り下げ、実際の様子を動画を使用するなど授業構成に工夫した結果、受講した学生から高い評価を得た。</p>
実務上の実績に関する事項		
事項	年 月 日	概 要
<p>1 資格、免許</p> <p>アニマルヘルステクニシャン</p> <p>ペットグルーミングスペシャリスト</p> <p>コンパニオン・ドッグ・トレーナー</p> <p>日本小動物獣医師会動物看護師</p> <p>ペット栄養管理士</p> <p>認定動物看護師</p>		
<p>2 職務の経歴及び職務上の業績</p> <p>①日本動物衛生看護師協会運営に関与</p> <p>②公益社団法人日本動物福祉協会新東京支部設立に関与、運営</p>	<p>平成9年4月～現在に至る</p> <p>平成18年4月</p>	<p>現NPO法人日本動物衛生看護師協会副会長として、前身である日本動物衛生看護師協会の運営を行い、動物看護師等の資格認定事業また、その職業能力の開発と向上及び雇用機会拡充に努めている。</p> <p>全国で活躍する動物看護職従事者で組織される当該団体において、毎年「国際セミナー」を開催し、海外の最新技術・知識を教授している。長年同職に従事する者と、若手同職者との技術、知識格差のすり合わせの面においても役立ち、臨床獣医師の数多くから高い評価を受けている。</p> <p>現NPO法人日本動物衛生看護師協会副会長として、前身である日本動物衛生看護師協会の運営を行い、動物看護師等の資格認定事業、また、その職業能力の開発と向上及び雇用機会拡充に努めた。</p> <p>全国で活躍する動物看護職従事者で組織される当該団体において、毎年「国際セミナー」を開催し、海外の最新技術・知識を教授した。長年同職に従事する者と、若手同職者との技術、知識格差のすり合わせの面においても役立ち、臨床獣医師の数多くから高い評価を受けている。</p> <p>1996年からヤマザキ学園の協力のもとボランティアクラブが主体となり「ペットハッピーホームプログラム」が本格的にスタートした。このプ</p>

<p>③一般社団法人日本動物看護職協会設立に関与</p>	<p>平成 20 年 5 月～ 平成 23 年 6 月</p>	<p>プログラムは、イヌやネコなどのコンパニオンアニマルを飼いたいと思っている人と、やむをえない事情があって飼えなくなり、新しい飼い主を探している人との、情報交換の橋渡しをするものである。</p> <p>ハッピーホームという言葉には、人と動物が一緒に暮らすことで得られる幸福をアピールしていきたい、との思いが込められている。我が家にコンパニオン・アニマルが来ることによって、本物のハッピー（幸せ）がホーム（家庭）に訪れる。人と動物の共生をより積極的に楽しんでいこうという姿勢を表現している。10 人足らずで発足したこのボランティアクラブは、15 年を経て 2006 年に現公益社団法人日本動物福祉協会の新東京支部となり、現在に至る。自身は支部長として発足当時より指揮を執り、譲渡活動や適正飼育の普及啓発に尽力している。</p> <p>一般社団法人日本動物看護職協会の設立理事として平成 20 年より設立準備会に参加した。この協会は動物看護職の社会的地位向上や全国の統一した資格制度の確立を含めた職域環境の整備を目標に、協会設立を行った。理事として渉外担当や認定資格制度の委員会運営など、協会の運営に尽力した。</p> <p>一般社団法人日本動物看護職協会の設立理事として平成 20 年より設立準備会に参加した。この協会は動物看護職の社会的地位向上や全国の統一した資格制度の確立を含めた職域環境の整備を目標に、協会設立を行った。理事として渉外担当や認定資格制度の委員会運営など、協会の運営に尽力した。</p>
<p>④動物看護職統一試験協議会設立運営に関与</p>	<p>平成 23 年 4 月～ 25 年 3 月</p>	<p>動物看護職統一試験協議会の副会長として設立や運営に尽力した。</p> <p>①公益社団法人日本動物病院福祉協会、②全日本獣医師協同組合、③学校法人ヤマザキ学園・NPO 法人日本動物衛生看護師協会、④一般社団法人日本小動物獣医師会、⑤日本学術会議協力学術研究団体日本動物看護学会の 5 団体が大同団結し、資格試験の運営認定を実施した。現動物看護師統一認定機構の礎となる会で、動物看護業界への貢献度は計り知れない。</p>
<p>3 当該分野の実務業績に対する産業界等の評価 ①全国専修学校各種学校総連合会専修学校制度制定 40 周年記念表彰</p>	<p>平成 27 年 7 月</p>	

<p>4 その他</p> <p>①ボランティア活動等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動の一環としての訪問活動</li> <li>・阪神淡路大震災被災動物のケア</li> <li>・特別養護老人ホームへの訪問活動</li> <li>・渋谷区ボランティアせせらぎ祭り参加</li> <li>・三宅島噴火災害動物救援活動</li> <li>・新潟県中越地震被災動物のケア</li> <li>・新潟県中越地震および岩手宮城内陸地震において被災者への募金活動実施</li> <li>・東日本大震災におけるボランティア支援活動</li> <li>・東日本大震災における被災動物への募金活動実施</li> </ul>	<p>平成9年3月～ 現在に至る</p> <p>平成8年1月</p> <p>平成9年4月～ 現在に至る</p> <p>平成9年4月～ 現在に至る</p> <p>平成12年6月</p> <p>平成16年10月</p> <p>平成19年7月 平成20年6月</p> <p>平成23年4月</p> <p>平成23年5月</p>	<p>当該法人のボランティアクラブの指導にあたり、地域のボランティア祭り、老人ホームの訪問活動を継続して実施することで、原初的な意味でのアニマルアシステッドセラピーを実践している。また、使用した動物のケアに動物リハビリテーションの技術を用いるなどして、活動に参加したボランティアクラブ員の知識・技術を高め、更に、各種メディアに取り上げられることにより、この分野に関する情報発信を広く社会に対して、実践することを実現している。</p> <p>災害現場にメンバーを派遣し、ボランティアクラブのメンバーを中心に、栄養失調、栄養障害また、飼い主と隔離されたことによる精神的ストレスに苦しむコンパニオン・アニマルの多くを救済した。また、救援物資の支援を行った。</p> <p>当該法人のボランティアクラブの指導にあたり、特別養護老人ホーム「かないばら苑」の訪問活動を実施している。福祉の面から積極的に社会参加した。実際の介護活動を体験し、社会貢献を行っている。</p> <p>渋谷区特別養護老人医療施設「せせらぎ」で毎年4月に行われている渋谷区ボランティアせせらぎ祭りへ平成7年より専門学校が参加している。毎回、イヌを連れていき、動物愛護の啓発や適正飼育の推進を行っている。</p> <p>現ヤマザキ動物専門学校の学生および教職員でボランティア活動をおこなった。東京日野市にある被災動物の救援センターにおいて、シェルターワークを継続して行った。救援本部より当学校宛に感謝状を授与された。</p> <p>多数の死傷者が出た中、大きな被害を受けたコンパニオン・アニマルの救済のために支援物資の供給に従事した。公益社団法人日本動物福祉協会新東京支部の発足に貢献した。</p> <p>公益社団法人日本動物福祉協会新東京支部常任委員として、被災者ならびに被災動物に対して募金活動等を行った。</p> <p>公益社団法人日本動物福祉協会新東京支部常任委員として、ヤマザキ動物専門学校の学生と教職員で、被災地に送る動物の支援物資の仕分け作業を行った。</p> <p>渋谷東急Bunkamuraにて版画家吉岡耕二画伯の作品提供により東日本大震災チャリティー吉岡耕二版画展を開催し、被災動物に対して募金活動を行った際、学園ボランティアクラブとして</p>
---	--	---

<ul style="list-style-type: none"> <li>東日本大震災におけるボランティア活動支援</li> </ul>	<p>平成 23 年 7 月～ 12 月</p>	<p>運営に参画した。</p> <p>福島県三春町を訪問。事故原発から 30 キロ圏内から保護されたイヌやネコを保護している緊急災害時動物救援本部のシェルターワークに参加した。タスクホースとして被災動物の救援活動に参画した。保護動物へアロマや動物リハビリテーションでの動物を癒すマッサージを実施し、施設スタッフへスキル指導をするなど被災動物の精神面への支援も行った。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>東日本大震災において被災地域の修学困難な新生を支援した学費減免等の支援</li> </ul>	<p>平成 23 年 10 月</p>	<p>被災地域の修学困難な新生への支援として平成 23 年度の学費免除、寮の無償提供等を担当して学費支援を行った。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>保護動物譲渡会活動実績</li> </ul>	<p>平成 28 年 12 月 平成 29 年 6 月、 10 月 ～現在に至る</p>	<p>公益財団法人日本動物愛護協会にヤマザキ動物専門学校が協力し、保護動物の譲渡会を校内施設レインボーホールで実施した。動物系の専門学校においてこうした活動は珍しく、動物のネットニュースに取り上げられた。学生ボランティアを動員し、教育的に譲渡活動を行った。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>第 2 回渋谷区防災フェス参加</li> </ul>	<p>平成 29 年 9 月</p>	<p>昨年より渋谷区代々木公園で 9 月 1 日の防災の日に合わせて行われた第 2 回渋谷区防災フェスのペット防災エリアにヤマザキ学園としてブースを構え参加した。学生ボランティアによるペットの同行避難意識調査や、教員によるペット防災セミナー、マイクロチップの普及啓発を行った。</p>

研究業績等に関する事項		
事項	年月日	概要
1 著書、論文、その他の成果発表 (著書) 1 動物看護実習テキスト 動物看護師養成専修学校教科書作成委員会編 監修	平成26年3月	動物看護学の実習編を網羅した教材で、動物看護師になるために必要な実習項目がすべて学べる内容である。 動物看護実習Ⅰと臨床検査学実習Ⅰの一部を執筆、編集委員および監修を担当した。 全271頁
(学術論文) 1 緊急災害時動物救援本部福島シェルター活動報告	平成24年3月	「ヤマザキ学園大学・ヤマザキ動物看護短期大学雑誌」第2号 p67-p79 平成23年3月に発生した東日本大震災並びに福島第一原発の事故により、福島県では住民の避難が実施された。それに伴い多くの動物たちが残され命を失うこととなった。事故から4か月が経過した時点で、緊急災害時動物救援本部は福島県三春町に直轄のシェルターを作り、20キロ圏内から救出されたイヌとネコの一時保護を開始した。9月より動物救援本部のタスクフォースとして定期的にシェルターワークに参加し、動物たちのケアを中心とする活動を実施した。保護された動物たちへの世話をを行う中、ヒトと動物との関わり、動物飼育の地域性、緊急時の同行避難等について、改めて考えることとなった。 山川伊津子、 <u>井上留美</u> 本人担当部分：シェルターワークの分析
(その他) 「学会発表」 1 「補助犬のQOLにおける犬のマッサージの有用性を考える」(口頭発表)	平成21年10月 (発表場所)	第3回日本身体障がい者補助犬学会 身体障害者補助犬はユーザーの補助のため、様々な動作を行い、多くの筋肉を使用している。そこで、補助犬のクオリティオブライフの向上の方法のひとつとして、マッサージを行い、疲労した筋肉をほぐし、癒しや安らぎを得ることが有用と考え、マッサージ前後の様々な項目を比較し、有用性を検証した。
2 動物リハビリテーションに対する意識調査(ポスター発表)	平成22年6月 (発表場所)	第5回日本動物リハビリテーション学会 まだ臨床現場での動物のリハビリテーションの概念が浸透してなかった頃に、飼い主および動物看護師向けにおこなった意識調査である。

研究業績等に関する事項		
事項	年月日	概要
3 業務分析からみる動物看護師の意識調査	平成24年7月 (ヤマザキ学園大学)	日本動物看護学会 第22回大会 動物医療の現場で仕事をする動物看護師たちが実際にどのような仕事をしているのか、またそれぞれの業務に対してどのような意識をもって取り組んでいるのか調べることを目的として調査を実施した。動物病院内における動物看護師の業務を7グループ56項目に分類し、それぞれの業務に対する実施度、重視度、自己評価を「よく行っている」～「行っていない」までの5段階評価で回答してもらい、その結果を分析、考察した。 山川伊津子、川添敏弘、赤羽根和江、井上留美、若尾義人、山崎薫 本人担当部分：調査結果の分析
「シンポジウム・フォーラム」 1 ペットサービスセミナー 2005 パネリスト	平成17年8月	(財)日本消費者協会 今後増えると予想されるペットトラブルをテーマに事業者がどのように情報発信していくか、どのようにしたらペット関連サービスについてのトラブルがなくなり業界が発展するかについてディスカッションした。
2 第3回ヤマザキ動物愛護シンポジウム (公開講座) パネリスト	平成20年10月 (ヤマザキ動物専門学校)	テーマ：「動物愛護と青少年の教育を考える」～動物たちが教えてくれること～ 目的は青少年に、ヒトとコンパニオン・アニマルの関係を通して「生命の尊さ」を学んでもらう。 パネルディスカッション「ヒトと動物が共に生きるためのルール」のパネラーとして、「人より短い命の動物との別れの心の準備」について意見交換をした。
3 ヤマザキ動物看護フォーラム パネリスト	平成23年12月 (ヤマザキ学園大学)	東日本大震災動物救援活動に関する報告を担当した。福島へ定期的にタスクフォースとしてシエルトワークした観点で話題提供を行った。
4 第6回ヤマザキ動物愛護シンポジウム (公開講座) パネリスト	平成24年7月 (ヤマザキ学園大学)	テーマ：「動物愛護と青少年の教育を考える」～動物たちが教えてくれること～ 目的は青少年に、ヒトとコンパニオン・アニマルの関係を通して「生命の尊さ」を学んでもらう。 パネルディスカッション「動物愛護管理法とヒトの暮らしを考える」のパネラーとして意見交換を行った。
5 「大学全入時代の専門学校進学という選択」朝日プロフェSSIONナル育成フォーラム パネリスト	平成25年5月 (秋葉原UD)	大学全入時代に専門学校へ進学する強みはどういったことなのかを探りその魅力を再確認した。 専門学校の各分野からパネリストが参加し、自校の特色をアピールし、各校大学にはない強みを発表した。

研究業績等に関する事項		
事項	年月日	概要
6 ヤマザキ動物看護フォーラム パネリスト	平成25年12月 (ヤマザキ学園大学)	動物看護師として今後に期待するものについて動物看護師の立場から話題提供した。
7 高校生のための専門学校進学フォーラム 2014	平成26年6月 (浜離宮朝日ホール)	各分野の専門学校代表者による座談会 パネリスト
8 ヤマザキ動物看護フォーラム パネリスト	平成26年12月 (ヤマザキ学園大学)	ヤマザキ学園における新しい専門学校教育について、専門学校の立場で話題提供した。
9 ヤマザキ動物看護フォーラム パネリスト	平成28年12月 (ヤマザキ学園大学)	ヤマザキ動物専門学校の動物看護教育専門学校は職業教育であり、教育の特色が大学とは異なる点について話題提供した。
「寄稿」		
1 日本動物福祉協会年次報告書 「新東京支部活動報告」	平成20年度～ 年1回発行 現在に至る	公益社団法人日本動物福祉協会新東京支部支部長として、活動報告を寄稿している。1年間の主な活動内容と本部からの補助金対象のイヌやネコの不妊手術や譲渡動物数の報告を行った。
2 JAWSレポート 「支部だより」	平成20年4月～ 年1回発行 現在に至る	公益社団法人日本動物福祉協会新東京支部支部長として寄稿した。本校では動物愛護に立脚した教育に長年取り組んでいる見地から、本校における取り組み等を紹介した。
3 毎日中学生新聞「仲良く暮らすワンポイント」	平成14年4月～ 6月	季節により、動物が生活していく上での注意点や、普段のイヌやネコの飼養管理についてアドバイスを記事にして執筆した。
「講演」		
1 動物愛護ふれあいフェスティバル（環境省中央行事（公財）日本動物愛護協会主催イベント）	平成9年9月～ 現在に至る (年1回9月) 動物愛護週間期間内2日間 (上野恩賜公園)	<p>広く国民の間に動物の愛護と適正な飼養についての理解と関心を深めるため、動物の愛護及び管理に関する法律に基づき、動物愛護週間（9月20日～26日）が設けられており、国、地方公共団体が協力して、各種行事を実施している。</p> <p>公益財団法人日本動物愛護協会から、指定を受け当該学校法人ヤマザキ学園ヤマザキ動物専門学校が、本フェスティバルに参加を続けている。本学学生が、上野恩賜公園一体を周るパレードの先頭に立ち、参加者と共に行進する。迷子の動物を減少させるための迷子札の配布、参加動物への一般身体検査や家庭で可能なグルーミング指導、イヌのグルーミング実演、愛犬のしつけ方教室、動物功労賞授与式の補佐などの企画、運営に携わり、昭和61年の参加以来、確かな動物愛護の啓発活動を推進する上で、一助となっている。</p> <p>草の根的なバックアップをすることで、毎年成功に導いている。</p>

研究業績等に関する事項		
事項	年月日	概要
2 動物愛護シンポジウム「めざせ！満点飼い主—ペットの高齢化について考える」	平成21年9月 (東京国立博物館「平成館」)	<p>上記、動物愛護ふれあいフェスティバルで開催される動物愛護シンポジウムにおいて行われた「めざせ！満点飼い主—ペットの高齢化について考える」でパネリストをした。</p> <p>日本で飼育されているイヌやネコは約半数が高齢化を迎えており、飼い主への経済的、肉体的など様々な負担が予想されている。ここでは、当時まだ認識が浅い動物リハビリテーションについて紹介するとともに、飼い主への動物介護サポート業務を担う動物看護師の存在に関して認知の啓発を行う機会となった。</p>
3 「動物衛生看護師の資質とその機能保証」平成17年度 日本獣医師会特別企画「獣医療と動物看護師」シンポジウム (パネリスト)	平成18年3月 (筑波国際会議場)	<p>社団法人日本獣医師会が主催となり、動物看護師認定団体の代表者等が集まり、それぞれの協会の事業内容、動物看護師の職域、資格認定制度を紹介し、現在の問題点について討議を行った。</p> <p>中でも、動物看護教育に50年の歴史を持つ本学は、適正な資質認定には学校教育制度を背景とした人材育成が必要であること、資質保障が重要であること、更新継続教育の提供を重視していることを主張した。ここでは、卒業生であり、動物衛生看護師の立場から、資格制度化についての意見等を発表し、現職の希望を代弁した。</p> <p>後に動物看護師養成団体の方向性を定める基準について、大きな影響をもたらした。</p>
4 ヒトと動物の関係に関する国際会議 IAHAIO2007 東京大会 発表 (デモンストレーション)	平成19年10月 (京王プラザホテル東京)	<p>世界各国で3年に1回開催される「ヒトと動物の関係に関する国際会議」において、ステージ発表 (デモンストレーション) を行った。内容は動物看護、グルーミング、イヌのトレーニングでイヌを実際に使用する画期的な内容であった。</p> <p>動物看護師の職業紹介を行い、動物看護職の現状理解をしてもらうと共に、動物看護師の将来性・職域の拡充を国際的に考える機会となった。</p>
5 動物看護シンポジウム「社会における動物看護師の存在」日本獣医内科学アカデミー／日本獣医臨床病理学会	平成21年2月 (京王プラザホテル東京)	<p>動物看護職協会の設立を控え、動物看護師の職域整備等に対する機運が高まりつつあったこの時、各代表による発表とパネルディスカッションを行った。ここでは、動物看護師養成校としての立場から、当校の教育への取り組みや、卒業生の進路等の現状を発表した。</p>
6 教育講演「動物看護におけるリハビリテーション」日本獣医内科学アカデミー／日本獣医臨床病理学会講演	平成22年2月 (京王プラザホテル東京)	<p>動物リハビリテーションは動物医療において、近年、関心が高まっており、その施術者として動物看護師の役割へ期待が集まっている。また、家庭動物の高齢化を背景に、動物のQOL (生活の質) の向上が重要視されている。今後の臨床現場で需要が見込まれる動物理学療法、基本的な技術と理論の理解を深めることは、良質な動物看護を提供するために必須である。</p> <p>ここでは、当時まだ珍しかった動物リハビリテーションを紹介し、認知度への貢献を行った。</p>



研究業績等に関する事項		
事項	年月日	概要
7 スタッフセミナー「薬を使わない痛みの看護ケア」第33回動物臨床医学会年次大会 講演	平成24年11月 (大阪国際会議場グランキューブ大阪)	動物痛み研究会でのスタッフセミナーを担当した。動物リハビリテーションの大きな目的として、疼痛管理がある。この理学療法における痛みの管理を普段の看護技術に応用することで、鎮痛剤の低減や QOL の改善に役立つことを提案した。聴講者からは、好評を得た。
「海外講演」		
1 動物リハビリテーションの取り組み	平成19年9月 (オーストラリアシドニー大学)	海外研修の研修先として訪問するシドニー大学で、日本においてまだ認知度が低かった動物リハビリテーションの取り組みについて事前授業を行った。 当時、日本で人気の高いミニチュア・ダックスフンドの椎間板疾患が増え、問題視されていた事も有り、関心が高かった。
「テレビ出演」		
1 いっとろっけん「わたしの街のイチオシさん」	平成22年3月	NHK いっとろっけん「わたしの街のイチオシさん」 動物福祉協会新東京支部として活動している、保護動物の一時預かりや新しい飼い主を探す活動を取り上げてもらい、動物愛護活動の推進に貢献した。
2 ワールドビジネスサテライト内「しごと箱」	平成22年1月	テレビ東京 ワールドビジネスサテライト ワールドビジネスサテライト内「しごと箱」BOX№17 動物看護師として紹介された。ヤマザキ学園大学の開学を控え高等教育への期待感をコメントした。
3 ジュディとパールの犬と歩けば	平成16年4月～6月 (計4回)	MX テレビ ジュディとパールの犬と歩けば 一般の飼い主からの動物に関する飼育、健康管理やしつけなどの質問に対し、回答をした。
「雑誌掲載」		
1 リハビリのテクニック	平成23年6月	当時、少しずつ広まっていたイヌのリハビリテーションの入門編を、カラー写真の解説付きで掲載した指導書である。 誠文堂新光社
2 学校訪問「犬のプロを目指すスクールガイド」	平成22年7月	毎号、動物系の専門学校を取り上げて掲載された。ヤマザキ動物専門学校動物看護・美容学科、動物看護学科、動物美容学科が紹介された。 誠文堂新光社

研究業績等に関する事項		
事項	年月日	概要
3 動物看護師の専門性をめざして	平成16年1月	当時は、まだ動物看護師の専門性について取り上げられることは稀でしたが、本校では早い時期から獣医療の歯科衛生の教育に着手しており、先見性のある取り組みが取り上げられた。 インターズー
4 動物看護師・トリマーになるには 井上こみち著	平成10年2月	なるには本の元祖である。ベテランの動物看護師、AHT（アニマル・ヘルス・テクニシャン）講師からのメッセージとして紹介された。当校に戻った直後で講師として駆け出しの頃の様子が描かれている。 ペリカン社
5 動物とふれあうしごと	平成11年11月	なるには本の第2弾。動物に関わる主要な仕事全般が取り上げられている。獣医師と飼い主の橋渡しをするAHTとして紹介された。 日経事業出版
6 朝日新聞 進学特集	平成23年10月	動物看護系の専門学校の紹介記事のため取材を受けた。本校の3年生の在校生を取り上げて、就職に強い分野とういことをアピールできた。 朝日新聞社
7 Y&Y進学特集 朝日新聞記事	平成18年10月	獣医師も頼る動物衛生看護師というタイトルで取材を受けた。本校のモデル犬を使用する特色や総合的に学習できる点を取り上げた内容で反響があった。 朝日新聞社
8 読売新聞朝刊くらし面	平成29年9月	「子猫預かり離乳まで飼育」という記事へ有識者からの評価として、動物愛護行政におけるミルクボランティアについてコメントが掲載され反響があった。 読売新聞社
2 特許等 なし		
3 その他 なし		